



一人ひとりのアイデア大事に

4月1日付で就任した。「風通しがよく、意見の言い合える環境をつくっていきたい」と柔和に語る。「現場の一人ひとりが気付いたことやアイデアが大事だ。若手

日本道路北海道支店長

出崎 幸男氏
いづみ ゆうお



からベテラン、協力会社も含めて立場に関係なく、その場で口でできる組織にしたい」と意欲をにじませる。

社内コミュニケーションが活性化することにより、「安全性の向上、業務の効率化、技術の継承につながる。自分の意見が組織に反映されることで、働きがいも実感でき、離職の防止にもつながる」と思っている」との考えを示す。

道内の道路整備事業を巡っては、北海道開発局、NEXCO東日本北海道支社による道東自動車道の延伸、4車線化などをターゲットに据え、「引き続き、チャレンジしていく」と意気込む。

民間工事は「ウエートを上げていく」と強調する。昨年6月に清水建設の子会社となったことを踏まえ、「清水建設のネットワークを使い、新たな顧客の獲得に注力していきたい」とシナジー効果の発揮を目指す。

具体的には「民間施設の外構工事のほか、清水建設と共同で入札できる案件があれば、一緒に挑戦していく」と方策を練る。自動車のテストコース建設も視野に入れ、受注につなげていく方針だ。

担い手の確保と、生産性向上の取り組みは「労働時間を削減するため、ICT、DX（デジタルトランスフォーメーション）、AI（人工知能）を積極的に取り入れ、推し進めていきたい」と力を込める。兵庫県出身。53歳。

